

物価高はピンチだけじゃない

智辯学園奈良カレッジ中学部 三年 弘畑 佑真

「食品値上げの波は五月も収まらない。」新聞の値上げ記事の見出しを見るのは昨年から何回目だろうか。主要食品会社の集計では五月は八百品以上が値上がりするという。缶コーヒーにおいては大手メーカー各社が二十五年振りに値上げに踏み切る内容におどろいた。

僕は時々、缶のカフェオレやスープを飲みます。これらが一缶あたり約10%~20%上がり中身は同じなのに量は少なくなったことに損した気分になります。

でも買い控えるかを考えたら生活必需品として買う方を選ぶ。これまでも沢山の食品、僕の好きなお菓子を何度も値上げしているが、両親は無駄や余剰と判断したもの以外は、これもあれも高いわ、家計に響くと言いながら受け入れている。電気は家庭内ではとにかくこまめに消灯しよう、エアコンのつけっぱなしはやめようと省エネを常に意識するようにしている。何でも塵も積もれば山となるものだよと家族でポジティブにとらえて出来る節約を考えて儉約に努めています。

そもそも物価上昇は絶対悪いのか？いや単にそうではないらしい。物価上昇は良い場合悪い場合どちらも言えることを知りました。

良い上昇とは、物の消費が活発になると企業の業績が上がり従業員の賃金もアップする。高くても買える物が増え、物価が上がるインフレ。

悪い上昇は原材料価格の高騰による企業のコストアップを商品価格に転嫁し物価が上昇すること。働く人の賃金が十分に上がっておらず消費者にとって負担が増し買い控える状態のことで、そこから日本はずっと抜け出せない状況にあるということです。

原材料の大半を輸入に頼る日本、その輸入品の価格が上昇。上昇の第一の原因はロシアのウクライナ侵攻で原油や穀物などの国際相場が大きく上回ったことです。戦争が直接自分たちが苦痛を感じることはなかったのですが、やはり戦争で良いことは何もなく、ロシアやウクライナに繋がりのある国すべてにおいて悪影響を受けている物価高単体の問題ではないのだと視点が広がりました。

僕はこれから自動販売機で買う瞬間だけ上昇した価格に高くなったな、損やなど単純に感じておしまいでなく、何故値上がりしたのだろう、サービスを維持するための値上げの代替はないのだろうか、歯止めなく値上がり続けることはないだろうかなど、社会に関心を持ち何か起きるたびに正しく理解していく必要があると今は強く感じるようになりました。僕は学生だからまだ真剣に考えることではないと勝手に線引きをしてはいけません。自分が損か得かだけを考える社会は成り立たないのです。

物価上昇について調べる中で、日本の食料の輸入品の依存の高さが問題であることも改めて認識できました。社会全体が大きく変わる、改善されることがない限り難しい課題ですが、個人でも再現できることとして、わが家は朝食をパン食から米食に切り替え、お米は地元産を食べ続けています。身近な地域貢献が地産地消率を上げることに繋がり、経済成長、発展への参画に繋がっていくと思うのでこれからも使命感を高く持ち、出来ることを少しずつ増やしていきたいと思っています。

今僕達はどこにいてもリアルタイムに世界中の出来事入手することができる情報ボーダレス社会にいます。正確さに欠ける情報量の氾濫が問題にもなっていますが、だれもが能動的に学ぶことが出来る環境を得られている。僕は社会的責任が伴う成人になる前の今から正しい知識を沢山身につけていきたい。そして知識を知恵に変え、行動する努力を怠らない大人になりたいと思います。